

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-153	14-105	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Personality and alcohol consumption: Pooled analysis of 72,949 adults from eight cohort studies. 性格と飲酒量：8 コホート研究より 72,949 人(成人)のプール解析		
<b>執筆者</b>		
Hakulinen C, Elovainio M, Batty GD, Virtanen M, Kivimäki M, Jokela M.		
<b>掲載誌</b>		
Drug Alcohol Depend. 2015 Jun 1;151:110-4. doi: 10.1016/j.drugalcdep.2015.03.008.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
性格、飲酒量、メタ解析		25823906
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b> 飲酒量を決めるのに性格の役割は長く論議されてきたが、前向きなエビデンスは不足している。</p> <p><b>方法：</b> 個人データに基づくメタ解析を行った。5つの因子モデル性格特性（外向性、神経質、親近性、誠実性、開放性）と飲酒量との関連をアメリカ、イギリス、ドイツ、オーストラリアからの8研究（総数72,949人、平均年齢50才、54%が女性）のデータを使って検討した。飲酒量は禁酒、適正飲酒、過剰飲酒にカテゴリー化した。</p> <p><b>結果：</b> 年齢、性別、人種で調整後、高い外向性の高い群（スコアの1標準偏差上昇に対するオッズ比;95%信頼区間；1.14;1.14-1.29）と誠実性の低い群(0.89;0.79-1.00)が適正飲酒から過剰飲酒への移行に対するリスク上昇と関連があり、また過剰飲酒とも関連を認めた。外向性の低い群(0.91;0.85-0.98)、親近性の高い群(1.09;1.02-1.15)、開放性の低い群(0.90；0.86-0.95)は適正飲酒から禁酒への移行に対するオッズ比の上昇と関連し、同様に禁酒とも関連を認めた。</p> <p><b>結論：</b> 個人データを利用したメタ解析からの知見では、過量飲酒、飲酒量の増加は外向型の人、誠実性に欠ける人の中でより認められる。一方で親近性の高い人、開放性に欠ける人は飲酒量を減らすことに対するオッズ比を上昇させる可能性があり、禁酒をより好む。</p>		